

多文化共生事業事例集

年度

R4

団体名

大阪府

助成金名：多文化共生のまちづくり促進事業

事業費総額 804 千円

事業名

オンライン国際クラブ OSAKA 推進事業

概要

府域全体の児童生徒を対象としたオンラインによる国際クラブ活動を実施した。また、国際クラブの活動プランや資料等を「多文化共生教育教材資料集」DVDとしてまとめ、府域の小中学校に配付した。

事業のポイント

オンラインによる国際クラブ活動を推進することで、普段は少数散在している外国にルーツのある児童生徒や、多文化共生に関心のある日本ルーツの児童生徒が互いの母文化にふれ、ともにアイデンティティを育み、自己肯定感を高める取組みを進め、児童生徒が自信を持って多文化共生のまちづくりを進めていく担い手となることを支援する。

事業の背景・目的

児童生徒のアイデンティティが育まれる多文化共生の社会の実現のためには、外国にルーツのある子どもと日本ルーツの子どもがともに活動する、日常的な多文化共生の取組みが不可欠である。

事業の詳細

- ① 「オンライン国際クラブ OSAKA」 推進会議の実施
府内（政令市を除く）各地区、各市町村・学校における多文化共生教育の取組み状況の把握と好事例の収集、更なる充実に向けた協議を実施することができた。
- ② 「オンライン国際クラブ OSAKA」 の実施
実施対象：府内（政令市を除く）公立小中学校に通う、外国にルーツのある児童生徒と日本ルーツの児童生徒
オンライン会議システムを活用し、関係 NPO 等からゲストティーチャーを招き、小グループに分かれて言葉、衣装、食文化などについて紹介してもらったり遊びを体験したりするなど、多文化に親しむ活動を行った。また、府立高等学校に通う外国にルーツのある生徒を招き、言語別のグループや複数ルーツ合同でのグループを設定し、児童生徒が興味のあるグループにわかれて母語などで交流する「オンラインしゃべり場」を実施した。



オンライン国際クラブ
参加案内

- ③ 「多文化共生教育教材資料集」（DVD）の作成
オンライン国際クラブやオンラインしゃべり場の活動プラン、オンライン国際クラブで活用した資料等を「多文化共生教育教材資料集」（DVD）としてまとめ、府内（政令市を除く）の小中学校に配付した。

在日外国人教育のための資料集

大阪府教育委員会

違いを認め合い 共に生きるために 増補版



追加コンテンツ

活動例

役に立つリンク集

モンゴル

フィリピン

台湾

ベトナム

「多文化共生教育教材資料集」（DVD）

事業実施における工夫点・事業の成果等

年間を通して、関係 NPO 等からゲストティーチャーを招き、子どもたちが多文化に親しむ活動の支援をしていただいた。

また、第3回推進会議では、桃山学院教育大学准教授 オチャンテ 村井 ロサ メルセデスさんを講師に招き、「外国にルーツのある児童生徒のアイデンティティを育む取組みについて～主体的に多文化共生のまちづくりに参加する行動力を高めるために～」と題して講義していただいた。

- ① 「オンライン国際クラブ OSAKA」推進会議の開催
児童生徒が地域社会の一員として活躍し、多文化共生のまちづくりの担い手となるという目標を共有し、同じルーツの仲間と交流できる場を積極的に設定すること等、更なる充実に向けた協議を行うことができた。
- ② 「オンライン国際クラブ OSAKA」の実施
外国にルーツのある児童生徒と日本ルーツの児童生徒を対象に、10 回開催した。12 カ国のゲストティーチャーを招き、延べ 700 人を超える児童生徒が参

加した。また、「オンラインしゃべり場」では、ゲストとして延べ 28 人の高校生が参加し、小中学校の延べ 90 人を超える児童生徒とともに活動した。

- ③ 「多文化共生教育教材資料集」(DVD) の作成
それぞれの活動で活用した資料等を「多文化共生教育教材資料集」(DVD) としてまとめ、府内（政令市除く）の小中学校等（873 校）及び 41 市町村教育委員会に配付した。



「多文化共生教育教材資料集」(DVD)

今後の課題・(コロナ禍の状況を踏まえた) 将来に向けての展望等

今後、多くの学校で多文化共生につながる国際クラブ等の活動が行われ、幅広い年齢層が集う取組みを充実させることにより、子どもたちが多文化共生のまちづくりを進めるロールモデルを身近に感じ、進路への展望を持たせることができると考える。また、国際クラブ等の経験を後輩に伝えたり、自身でさらに広げるような活動を行ったりするなどにより、次の世代につなげていくことができると考える。

今後もオンラインを活用して各学校の国際クラブ等の取組みを支援し、普段会うことのない少数散在する外国にルーツのある児童生徒や、多文化共生に関心のある日本ルーツの児童生徒が集う場を確保していきたい。そして、そのネットワークを生かし、各市町村の多文化共生の取組みをさらに充実させていきたい。

事業担当者のふりかえり

- ・回を重ねるごとに参加者が増加しており、オンライン国際クラブのニーズは高いと考えている。
- ・「オンラインしゃべり場」にて、外国にルーツのある児童生徒が、同じ言語や文化の児童生徒と母語を使って交流できる場を持つことで、アイデンティティの育成を支援することができた。外国にルーツのある児童生徒は府内に散在しており、直接出会う機会は少ない状況にある。オンラインを活用することで出会いが容易になることから、今後も市町村に対して本事業で得たノウハウを伝え、多文化共生のまちづくりを進めていく担い手となる子どもどうしのつながりを広げていきたいと考えている。